

532 オープンキャンパスの運営を助ける学生ボランティア約30人のリーダーを務める。筑波学院大（つくば市）の4年生。キャンパスツアーでは、参加者の高校生らの班分けをできばき行った。現在は広報誌も制作中だ。内容は「高校生が（同大に）入りたくなるような」一冊にするという。

周囲の教職員は「とても成長した学生」と評する。それは、自身も自覚している。「2年生までは、何となく学校に通っていた。楽しいと思えず、あまり

一生懸命を楽しむ



笑えなかった」と振り返る。憧れのキャンパスライフと現実はずいぶん、授業をサボることもあった。

オープンキャンパスのスタッフリーダー

とみた 富田
ゆうすけ 雄介さん(21)



「レゲエのイベントでMCをこなすなど充実していたが、大学生活に楽しさは見いだせなかった。レゲエのイベントでMCをこなすなど充実していたが、大学生活に楽しさは見いだせなかった。そんな自分を変えた」と、3年生でオープンキャンパスのスタッフを始めた。当初は参加者にあまり声を掛けられず、案内もできなかった。2、3回経験すると余裕も出て、高校生や保護者に積極的に話し掛けられるようになった。一生懸命に打ち込む楽しさを感じた。「先輩が楽しそうだったから、筑波学院大に入りました」と言われたら、うれしい。土浦市東真鍋町。（斉藤明成）

「先輩が楽しそうだったから、筑波学院大に入りました」と言われたら、うれしい。土浦市東真鍋町。（斉藤明成）